

# 高校生スピーチコンテスト

2013年3月23日(土) 兵庫県私学会館に於いて第2回高校生スピーチコンテストが英語、日本語と交互に9名で実施されました。会場は昨年より広い場所でしたが、参加校の先生方、応援の保護者や生徒さん達総勢128名の参加者で大盛況でした。審査は公平で、厳正にして頂くため、英国人大学院英語講師、通訳・翻訳家、神戸新聞社取締役営業部長等、外部の有識者に依頼しました。また日本リージョンからはほぼすべての役員に審査員、評価者をお願いしました。評価者はもちろんカウンスルNo.3の会員にもお願いしました。表彰後の審査員4名による講評は生徒達にとって今後の指針になる有益なものだったと思います。今回もまた多くのカウンスルNo.3の会員の強力なサポートで高校生スピーチコンテストがスムーズに運んだことは言うまでもありません

また、次世代のお役にたてるよう、更にはITCの知名度をアップし、国際的な教育機関であるという事を世間に広く告知していくという事も兼ね備えたプログラムである事は間違いありません。今後の発展を決めるのは会員一人ひとりの前向きな意思につきると、今回も感じました。表彰式の後の高校生の充実した笑顔は会場にいた誰もの記憶に残るものであり、新聞記事をご覧になった方も同じ笑顔に違いありません。







それぞれの思いを懸命に訴えたスピーチコンテストの参加者＝県私学会館

（畑野士朗）

姫路市。愛理さん(16) 赤穂市、英語部門が同校の吉本真由さん(16) 西宮市が優勝し賢明女子学院高の岸本

県内の私立高校生が自分の思いを伝えるスピーチコンテストが23日、神戸市中央区の県私学会館で開かれ、日本語、英語の各部門に計9人が参加した。日本語部門ではポランティアの理想像を語った芦屋学園高の森下果奈さん(17) 川西市が、英語部門では若者が日本に誇りを持つことの大切さを訴えた甲南女子高の北方美穂さん(16) 西宮市が優勝し、日本語部門が賢明女子学院高の岸本

### スピーチコンテスト 高校生9人 思い伝える

神戸、日本語と英語で

た。コミュニケーション能力などを育てる国際組織「ITC」の県内会員らで構成する「カウンシルNo.3」が企画し、今年で2回目。森下さんはスピーチで「困っている人の心に寄り添い、手を差し伸べることが出来る人になりたい」と強調。「今日はちよと誕生日。これからも会話能力を磨きたい」と優勝を喜んだ。北方さんも「言いたいことが多くあり、原稿をまとめるのに苦労した。日本の未来を今の若者が担っていることを伝えていきたい」と話した。